

『思いがけない出来事』

大阪府泉南郡熊取町立南小学校 六年 井黒 想来

「給食室から火災が発生しました。避難して下さい。」

私たちは慌てて体育館に避難した。高く上る黒い煙が見えてとても怖かった。訓練ではなく初めて起きた給食室での火災。ただただ怖かった。みんな慌てて逃げた。緊急事態で、その日の給食は災害時用の非常食のパンが配られた。お腹は空いてたけど、黒い煙が頭の中から離れなかった。それに配られたパンは固くてとてもじゃないけど美味しいとは思えなかった。少し食べただけで後は残してしまった。その日とっても楽しみにしていた給食の地元名産の熊取コロッケが食べられなかったことよりも、火事が怖かったこと、これからの給食はどうなるんだろう？という思いで勝手に涙が出た。毎日当たり前のように食べていた給食は当たり前ではなかったと気付かされた。急に調理員さんのことが心配になった。毎日私たちの給食を命がけで危険と隣り合わせで作ってくれていたのだと思うと、「調理員さんもきつと怖かっただろうな。大丈夫かな？」と何度も思った。

火事で給食室が使えなくなり、次の日は軽食だった。給食が出ない事にガッカリしたけど、仕方のないことだと分かっていた。次の週から私たちの給食は隣の学校で作った給食が運ばれて来た。給食が出る事がこんなにもありがたいことなんだと実感した。でも、運ばれて来た給食はスープが冷めていたり、ご飯が蒸気でべっちょりしていたり、いつも食べていた給食とは大きく違っていた。今まで考えた事もなかったけど、学校に給食室があつて、ほかほかのご飯や温かいスープが出ることが当たり前なことではなかったんだと初めて気付かされた。その日からいつも以上に給食に感謝するようになった。それに、私たちの美味しい給食を命がけで毎日作ってくれている調理員さんにも感謝の気持ちでいっぱいになった。給食のありがたみを、こんな形で考え直す事になるなんて思いもしなかったけど、この事がきっかけで、私の中で変わった事があった。それは、毎日その日の給食の話を家族でするようにになった事。家族で給食の話をして、気になったメニューをわが家の食卓にも取り入れるようになった事。家族で給食の話をしたり、自分で作ってみると、今まで以上に給食のありがたみを実感するようになったし、作る事の大変さを知るきっかけになった。ますます日々私たちのために暑い中、給食室で美味しい給食を作ってくれている調理員さんに「いつも美味しい給食を作ってくれてありがとう。」って思えるようになった。

普通なら思い出の給食を聞かれたら、自分の好きなメニューをあげるだろう。でも私にとつての思い出の給食は火事の日食べた固いパン。あのパンが私の『給食への思い』を大きく変えてくれた。